

年頭のごあいさつ

輝かしい未来へ向かって

市民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

皆さんにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから市政に対する温かいご支援とご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、春の統一地方選挙において多くのご支援と心温まるご厚情により、無投票ではありましたが、市民の皆さんからの大変重い信託をいただき、市長に就任させていただきました。皆さんにお約束した政策の実現に向け、三笠市の豊かな自然・歴史・文化・産業・人材など、まちの特性を最大限に生かし「誇りと希望にあふれるまちづくり」に向けて全力を尽くす決意であります。

さて本市は、永く大きな人口減少の中にもありましたが、子育て支援策や移住定住策の成功により、社会増減では一昨年ついに増加に転じることができました。

前市長がまいた多くの新しいまちづくりの種が芽となって着実に育ち始めています。この芽をしっかりと育て上げていくことが私の役割であり、昨年の育った芽（明るい話題）として、一つは、イオン農場で栽培した三笠メロンを香港で販売し、用意したメロン2,000個をすべて売り尽くす大盛況の中で終え、世界に三笠メロンを発信することができました。

また三笠高校では、貝印スイーツ甲子園で全国優勝を成し遂げ、他のコンテストでも大賞などを受賞し、高校生の活躍は目覚ましいものがあります。その高校生の活躍を後押しするかのよう、昨年策定しました「三笠市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で重点プロジェクトとして定めた「高校生レストランをはじめとする食の街道づくり推進事業」が国の交付金の選定を受け、高校生レストランの建設に向けて動き始めたところです。

この事業は全国的にも地方創生のモデルとして注目されていますので、ぜひとも高校生レストランをまちづくりの起点とし、今後の「食の街道づくり」や経済産業の活性化に繋げていきたいと考えています。

そのほか、三笠ジオパークについてもツアー参加者が年間1,000人を超えるなど、三笠ジオパークの認知度は着々と広まっているところであります。

今はまさに地方創生の時代です。三笠市は、国が地方創生を掲げる前からまちの再生(創生)に向けて動き出し、これらの事業が確実に良い方向に向かっています。この流れを止めることなく、また甘んじることなく、新しい発想も取り入れ着実にまちづくりを進めていきたいと思っております。

しかし、市立病院の経営や三笠警察署の存続など課題も山積しています。これらの課題はどれも簡単に解決できるものではありませんので、これからも皆さんと知恵を出し合い、協力し合って、一つ一つ解決に結び付けていきたいと考えています。

今年は申(さる)年です。「申(しん)」には長く伸びるという意味があります。三笠市が輝かしい未来へ向かってますます伸びる一年となりますよう精一杯頑張りますので、引き続き市民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が三笠市にとりましても市民の皆さんにとりましても、素晴らしい年となりますことを祈念し、新年のご挨拶といたします。

(広報みかさ平成28年1月号に掲載したものです。)